



明桜レター



木に寄せて

教頭代理 佐藤 尚子

今年も私の一番好きな季節が巡ってきました。強すぎる日差しはようやく影をひそめ、朝晩の清涼な空気と高い空。ここ明桜高校に通う毎日だからこそ味わえる美しい風景が私は好きです。

いつの頃からか、木に惹かれる自分に気がつきました。中学校では美術の時間に描く絵は（なぜか三年間美術の授業ではずっと絵ばかり描かせられました）いつも木がモチーフ。いわゆる「幻想画」のようなものを描いて、木の姿、枝や根の形に人間の様々な感情を重ね合わせていたような気がします。大人になってからも、旅をすればカメラに収めるのはたくさんの方の心惹かれる木々の姿でした。日光を訪れた時も、東照宮を始めとする数々の世界遺産よりも（もちろんそれらも見学しましたが）鬱蒼とした杉木立の街道と参道をてくてく歩くのが主目的でした。戦場ヶ原や尾瀬ヶ原への一人旅、リュックを背負って歩いた時も、沼のほとりにたたずむ白樺の姿の静謐な美しさに心を奪われました。その木は「草原の貴婦人」と呼ばれているのだそうです。文芸同好会顧問として生徒引率で訪れた札幌の大通公園でも、帰秋後写真を見れば木々の写真はやはり。生徒からは「前世が木だったのでは？」と言われたことを思い出します。

いつも「木には勝てない」と思っています。

物も言わず、見る人にはほとんど変化を気づかせることもなく、それでも静かに自分自身の内なるものを充実させて日々確実に成長を遂げていきます。どんな厳しい環境にも声上げることなくしなやかに身を処して、切られればまた別の場所から芽を出し、上へ上へと高みを目指す……だから「木には勝てない」と思うのです。そしてまた、そんな姿に私達人間のありようが重なって映ります。

今年も間もなく、明桜高校と大学の敷地に植えられたたくさんさんの木々が、それは美しい姿に変わってゆきます。この秋、学校への行き帰りや休み時間、スクールバスの待ち時間、たくさんの方の心惹かれる木々の姿に自分の今の姿も映しうつ、より高い空を目指していつばいに手を上げ伸びていつてほしい、そう願っています。

One for all. All for one.

燃えた学級対抗!!

8月24日と27日の2日間にわたって、学級対抗が行われました。それぞれのクラスが勝利を目指して、戦いました。勝敗を超えて、クラスの団結力が高まり、良い思い出となりました。



学級対抗成績

バスケットボール

1位：3A 2位：3F 3位：1A

バレーボール

1位：3I 2位：2I 3位：2A

バドミントン

1位：3C 2位：3I 3位：3F

サッカー

※1日目、雨天中止になり、順位はつかず

野球部～甲子園への挑戦～



- 明桜高校 応援曲レパートリー
- ①戦闘開始
 - ②オーメンズ・オブ・ラブ
 - ③明桜サバイバー
 - ④タイガーラグ
 - ⑤ロツテ 他多数



●試合結果

二回戦	明桜 十六ー〇 秋田西 (五回コールドゲーム)
三回戦	明桜 二ー一 横手 (延長十二回サヨナラゲーム)
準々決勝	明桜 三ー二 大館鳳鳴 (サヨナラゲーム)
準決勝	明桜 十一ー九 能代翔陽
決勝	明桜 〇ー二 金足農

第一〇〇回全国高等学校野球選手権記念秋田大会が七月十日から二十一日まで行われました。明桜高校野球部は第三シードとして出場し、甲子園出場を目指しました。全校をあげての応援で、大いに盛り上がりました。接戦を制し、決勝まで勝ち進みましたが、惜しくも金足農に敗れ、夢の舞台には届きませんでした。しかし、連日の好ゲームと全県一の応援で一〇〇回大会を盛り上げたのは間違いなく、明桜高校だったと思います。



全国大会結果

全国大会に出場して

男子ソフトボール部

主将 木山 龍成

私たち男子ソフトボール部は八月に三重県熊野市で行われたインターハイに出場しました。春の全国選抜を含め四回連続で全国大会に出場することになりました。全国選抜大会ではベスト16に進出したので、今回はベスト8を目標に全国に挑みました。

私たちは一回戦からの出場で長野県代表の飯山高校と対戦しました。プレースタイルやチームの雰囲気などが私たちにとても似ているチームだったので気後れすることなく伸び伸びと試合に臨むことができました。試合は本校が初回に一点先制し、一回にもホームランが出て3対0とリードしました。しかし気の緩みが出て、一気に同点に追い付かれてしまいました。その後、最後まで粘り強くプレーできる私たちの強みを活かし、強い打球を打ち、次の打者へとつなぎ、しぶとく点を取るという流れへ持ち込み、見事3対3で初戦を突破しました。本校が初戦を突破したのは実に十一年ぶりのことでした。

次の対戦相手は二次抽選の結果、昨年の準優勝校で福井県代表の啓新高校でした。日本代表のヒッチャーが所属するチームであり、打線も一番から九番までものすごい打球を打ち、守備でも私たちの打球は苦もなくさばかれました。本当に圧倒され敗れました。(啓新高校がインターハイで優勝しました)しかし、春に続きベスト16という結果を収めることができました。



今回のインターハイではベスト8という目標を達成できなかったことは悔しかったです。しかし、全国大会に四回続けて出場し、春夏連続して勝つことができたのは大きな経験になったと思います。強豪チームが揃った二次抽選会へ顧問の近江先生とともに出席できた

のもよい思い出になりました。この大会はベスト16に進出しましたが後輩たちはこれで満足せず私たちよりも良い成績を残せるように頑張ってください。最後に今まで応援して下さいました皆さん、本当にありがとうございました。そしてこれからも成長し続ける男子ソフトボール部をよろしく願います。

全国大会に出場して

レスリング部 櫻庭 翔真

今年も昨年に続き、インターハイへの出場を果たしました。初出場だった昨年は初戦で敗れ、全国のレベルの高さを痛感しました。今大会の初戦の相手は滋賀県の選手で近畿大会は三位、相手にとって不足はないと思います。焦ることなく最少失点に抑える意識を持ち得点の機会を伺っていました。残り一分となり相手の僅かにリードを許したところから一気に攻勢をかけ、残り十秒で逆転し念願の全国大会初勝利を手にしました。続く二回戦では春の全国選抜の優勝者と当たり、手も足も出ずに負けました。



轍

男子テニス部 平野 卓貴

三年間走り続けてきたが、その中で自分が残せたものは何だろうか。テニスが上達したということはもちろんあると思う。しかし、私が手に入れることができたものは努力する力だ。やればできるという言葉が多くいるが、やることは非常に難しく、その葛藤を超えることで結果が生まれると考えられるようになった。インターハイ出場を決めることができた



が、大会直後はあまり実感がなかった。学校でたくさん先生方や友達に祝福され、やっとなんか嬉しいことができた。自分が多くの人に認められていて感じることで、今までの苦労が喜びに変わっていった。努力することを得られる喜びを知ることができた。苦しさの向こう側にある喜びを知っていたれば、また次の目標に向かって、困難も乗り越えていった。途中で折れることのないしっかりとした軸が心の中にできた。全国大会では力及ばず負けてしまったが、全国大会の舞台で勝つことより大切なものをこの三年間を通して得た。しかし、勝てなかったことが悔しくないわけでもない。全国大会での勝利への思いは後輩たちに託したい。私の努力の跡が後輩たちの道標となり、途切れない一本の道になってくれると信じている。

インターハイに出場して

少林寺拳法同好会

長谷川 ゆずな

私には高校生活最後のインターハイにひとつの目標がありました。それは決勝に進出をするということでした。そのために大会で撮影した映像を見て、動き方などの改善点を部員と話し合い、お互いにアドバイスをして、そしてそこから自分の動きの問題点をなくすよう大会に向け、ひたすら練習を繰り返しました。しかし、大会本番での結果は満足のいくものではな



く、高校最後の大会は残念な結果で終わってしまいました。大会に向いて頑張ってきた日々は大変でしたが、熱心に指導してくださった先生方やお互い励まし合って練習を重ねてきた部員と過ごせた

三年間はとても貴重な体験となりました。後輩には、引き続き大会に向けて頑張ってくださいと思います。

放送部の頂点、Nコンへ出場して

放送部 鈴木 悠介

私たち放送部は、七月二十四日から二十八日にかけて東京都にて行われた、NHK杯全国高校放送コンテストに出場しました。その前に、皆さんは放送部がどんな活動をしているかご存知ですか。放送部では年二回大会があり、それに向けたアナウンス、朗読の練習や、ドキュメントやドラマなどの企画、撮影、録音、編集等を主に活動しています。今回はその日々の活動の成果が実り、秋田県大会で最優秀賞を頂いたテレビドキュメント作品「にじいろの明日へ」と、入選を頂いたラジオドキュメント作品「いきたくない」の2作品が全国大会へ進出しました。

「にじいろの明日へ」は今日メディアなどでも取り上げられる性的マイノリティ問題についてフォーカスを当て、その中で秋田に今足りていないものを挙げ、東京などの現状と比較して秋田の未来を考えるとという作品でした。そして、「いきたくない」は、秋田県の自殺率の高さに焦点を当て、秋田県内のコミュニティなどに取材をしながら様々な意見を取り入れて自然に取材について考える作品でした。ふたつとも秋田の現状について再度考え直すきっかけとなる作品が制作できたと思います。

残念ながら、全国大会では準々決勝敗退という結果となってしまいました。他校の作品を観て、自分が気付かない角度から見た作品が沢山有り、クオリティの高さに驚かされました。全国の壁の高さを知ることができました。それを乗り越える糧を手に入れたと思います。応援して下さい。生徒のみならず、先生方ははじめとする沢山の方々に御礼申し上げます。これからも応援のほど、よろしく願います。



人工芝グラウンド完成



花田校長

全校生徒が待ち望んでいた、総合グラウンドの人工芝が完成しました。緑波青々たる緑の出現は、本校を取り巻く多くの緑樹と一体化され、これまでの景観を、まさに一変させました。これからは、この素晴らしいグラウンドで思い切り走り回ることができる生徒の皆さんは本当に幸せだと思っています。日々の部活動に、あるいは体育の授業や学校行事に大いに活用して下さい。この人工芝が本校の誇る新しい施設として、いつまでも皆さんに愛され、利用されることを願います。

体育科主任

待ちに待った、総合グラウンドの人工芝が完成しました。初めて授業で使った時の勢いよくグラウンドに向かって行く生徒の姿が印象に残っております。これまでの土のグラウンドと違って、サッカーでのスライディングやソフトボールで打球に飛び込んだりする光景も多くみられます。今後も体育の授業で人工芝の総合グラウンドを大いに活用していきたいと思っています。



女子サッカー部監督

この度、明桜高校総合グラウンドが全面人工芝となり、緑一面となったグラウンドを大変うれしく思います。グラウンドの人工芝化による環境の変化とともに、トレーニングに対する意識の変化など、チームに変化が出ています。今後も秋田県の女子サッカーを盛り上げていけるように、このグラウンドで精一杯トレーニングをし、インターハイ、皇后杯、高校選手権の3大会に出場できるように励んでいきたいと思っています。今後とも応援よろしくお願いします。



男子サッカー部監督

人工芝の完成で、選手たちの練習環境が改善され、とても喜んでいきます。今までは砂まみれになりながら練習に励んでいましたが、人工芝では、汚れることはなく、怪我の恐れも減り、思いっきりサッカーをすることができています。最近では、芝生での試合が多いため、より現実的な練習をすることができ、人工芝グラウンドはなくてはならないものとなりました。



編集・発行 ▼ 明桜高等学校

秋田市下北手校守沢8番地1